

交女出版は大正七年二月で、本の表題は『朝妻双紙』
と云ふ。中央公論へ載せる朝妻双紙外四五編朝妻双紙
を集めたもので、アレスで出版して云れた。前田鼎さんがその稿の
紹介をして云れたので、田山花衣氏が序文を書いて云れた。表題
の文字や何かは北原白秋氏が書いて云れた。其の時はアレス
か今日のやうに大きくなると云ふ時代なので、成程は要るが云。
か本は云々云々云々も傳は初めの本を出して云々云々大妻双紙
か云々。それから今日迄に十何冊か本を出して云々か、一向い
物も書かないか、書かぬ物を無ん、読まらぬに書かぬものない物
ばかり書いてゐる癖に早くも出版に対する威の激だけか書か
し、まゝ云々云々。こんなことでは駄目です、ね、明年あがりからは
交女出版あがりのやうな書かぬ云々、
にやりませう。6

村松 風